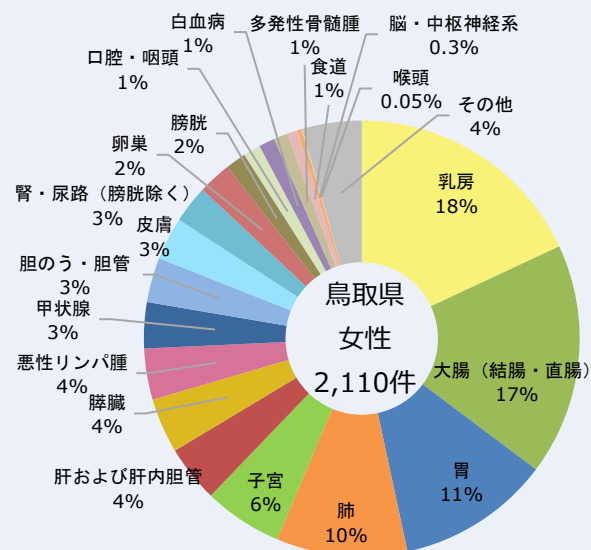
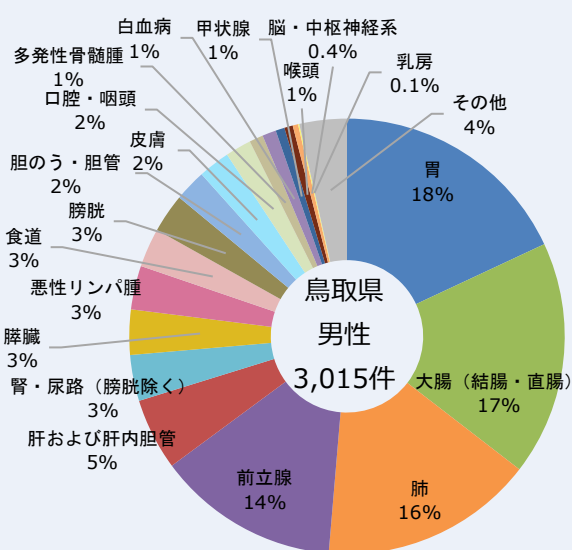
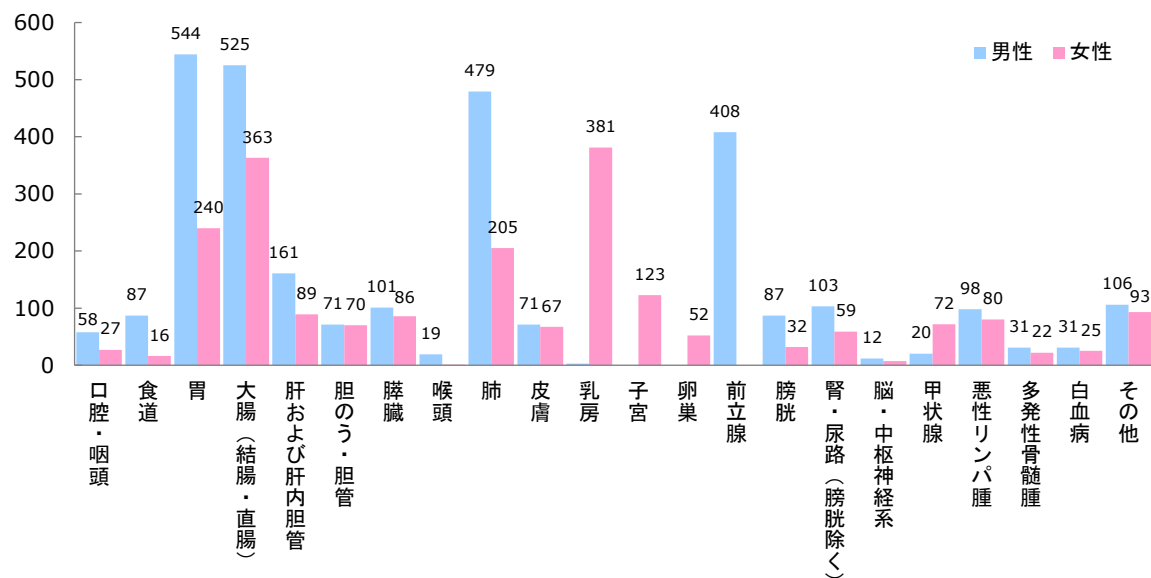


鳥取県のがん罹患と死亡の現状（2016年）

鳥取県のがん罹患の現状は、「**全国がん登録**」と「**院内がん登録**」によって把握することができます。

全国がん登録

罹患数一部位別男女別（2016年）



上皮内がんを除く全部位の罹患数は、5,125 人です。全がんに占める割合は、男性 3,015 人（58.8%）女性 2,110 人（41.2%）です。

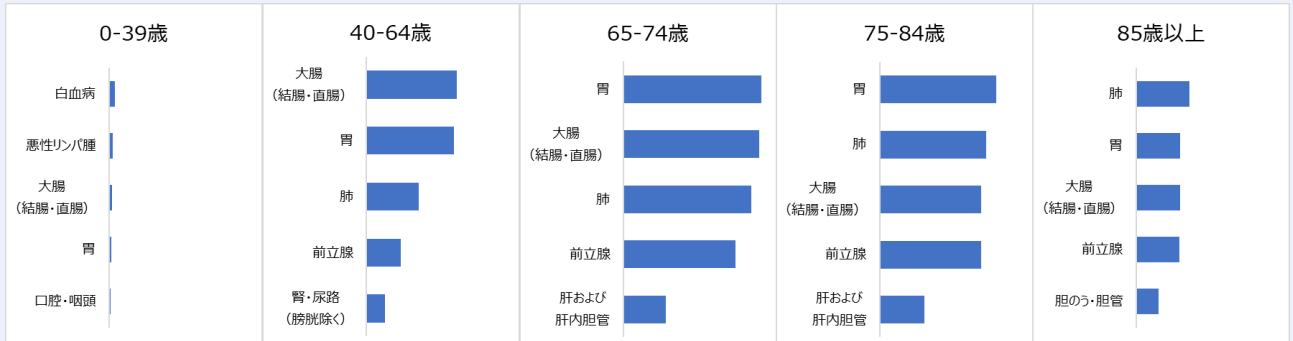
罹患数の順位を部位別に見ると、男性において罹患が最も多いのは胃544人、次いで大腸525人、肺479人、前立腺408人、肝161人の順。

女性においては、罹患が最も多かったのが、乳房381人、次いで大腸363人、胃240人、肺205人、子宮123人の順。

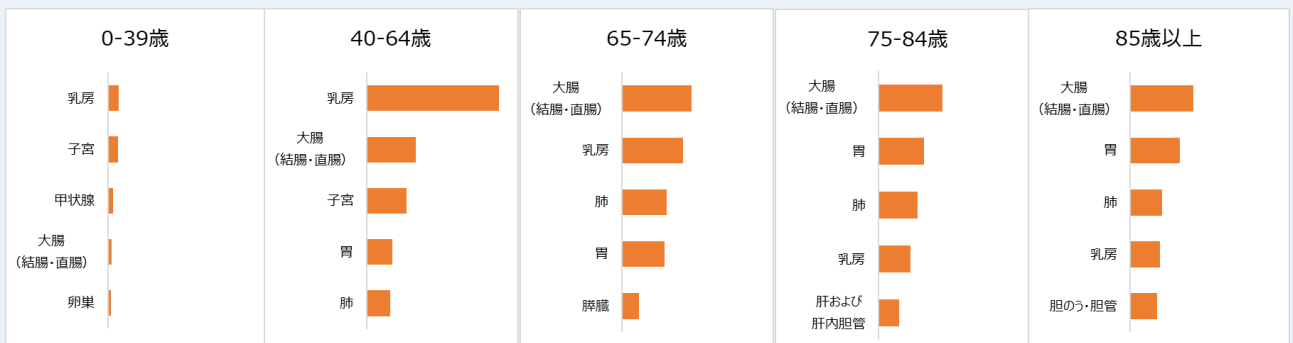
全国と比較すると、女性は概ね罹患数の部位別順位は同じですが、男性では前立腺の順位が全国第2位に対して鳥取県は第4位と低い。

全国がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2016年）

年齢区分別上位5部位（男性）



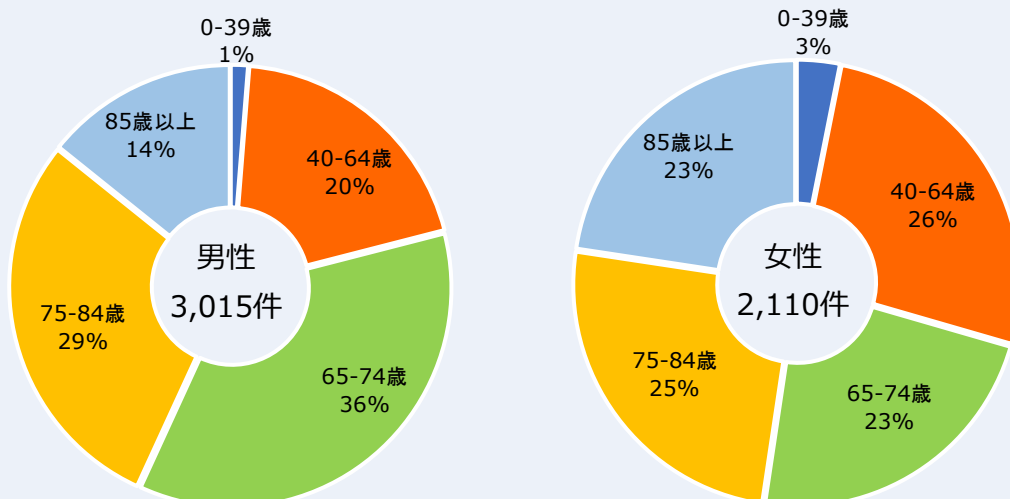
年齢区分別上位5部位（女性）



男性の0-39歳代では、白血病が最も多く、次いで悪性リンパ腫、大腸、胃、口腔・咽頭。40-64歳代では、大腸が最も多く、次いで胃、肺、前立腺、腎・尿路の順であった。65-74歳代では、胃、大腸、肺、前立腺がおしなべて多く、次いで肝、75-84歳代でも、胃、肺、大腸、前立腺がおしなべて多く、次いで肝、85歳以上では、肺が最も多く、次いで胃、大腸、前立腺、胆のう・胆管の順。

女性の0-39歳代では、乳房と子宮が最も多く、次いで甲状腺、大腸、卵巣の順。40-64歳代では、乳房が最も多く、次いで大腸、子宮、胃、肺、65-74歳代では、大腸が最も多く、次いで乳房、肺、胃、脾臓、75-84歳代でも大腸が最も多く、次いで胃、肺、乳房、肝、85歳以上では、大腸が最も多く、次いで胃、肺、乳房、胆のう・胆管の順。

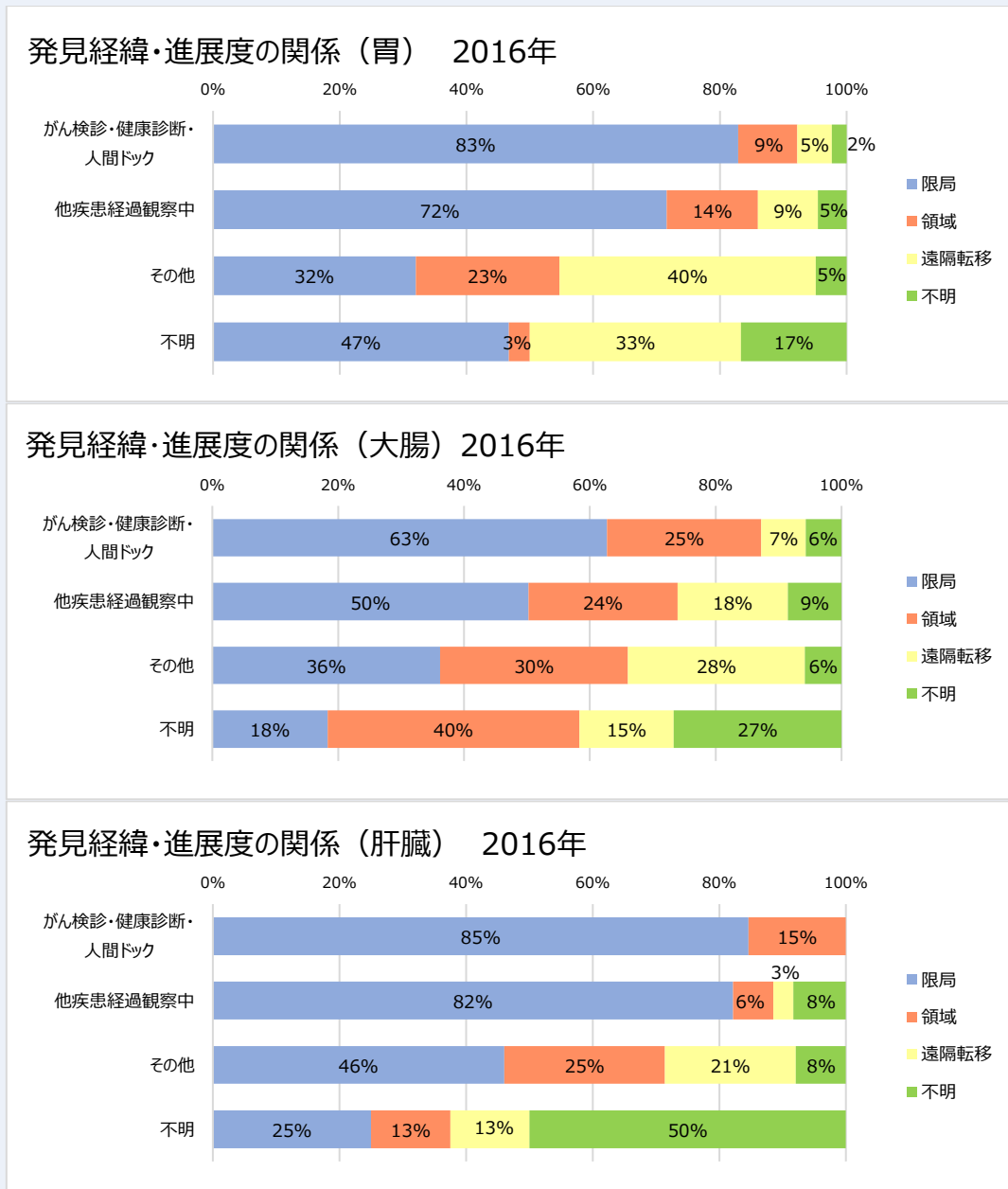
年齢5区分割合（%）



発見経緯と進行度の関係から、がん検診・人間ドック・健康診断などのがん予防効果の疫学的検証

ほとんどの部位でがん検診・人間ドック・健康診断などによるがん発見例において、いわゆる早期がんに相当する限局割合が多く、遠隔転移の割合が少ないことが認められています。

肝臓においては、他疾患経過観察中による発見例が65%と多いですが、その進展度も限局割合が85%と最も高い値を認めています。いずれにしてもがん検診・人間ドック・健康診断などを受診する方が早期発見・早期治療によるがん予防が期待できます。

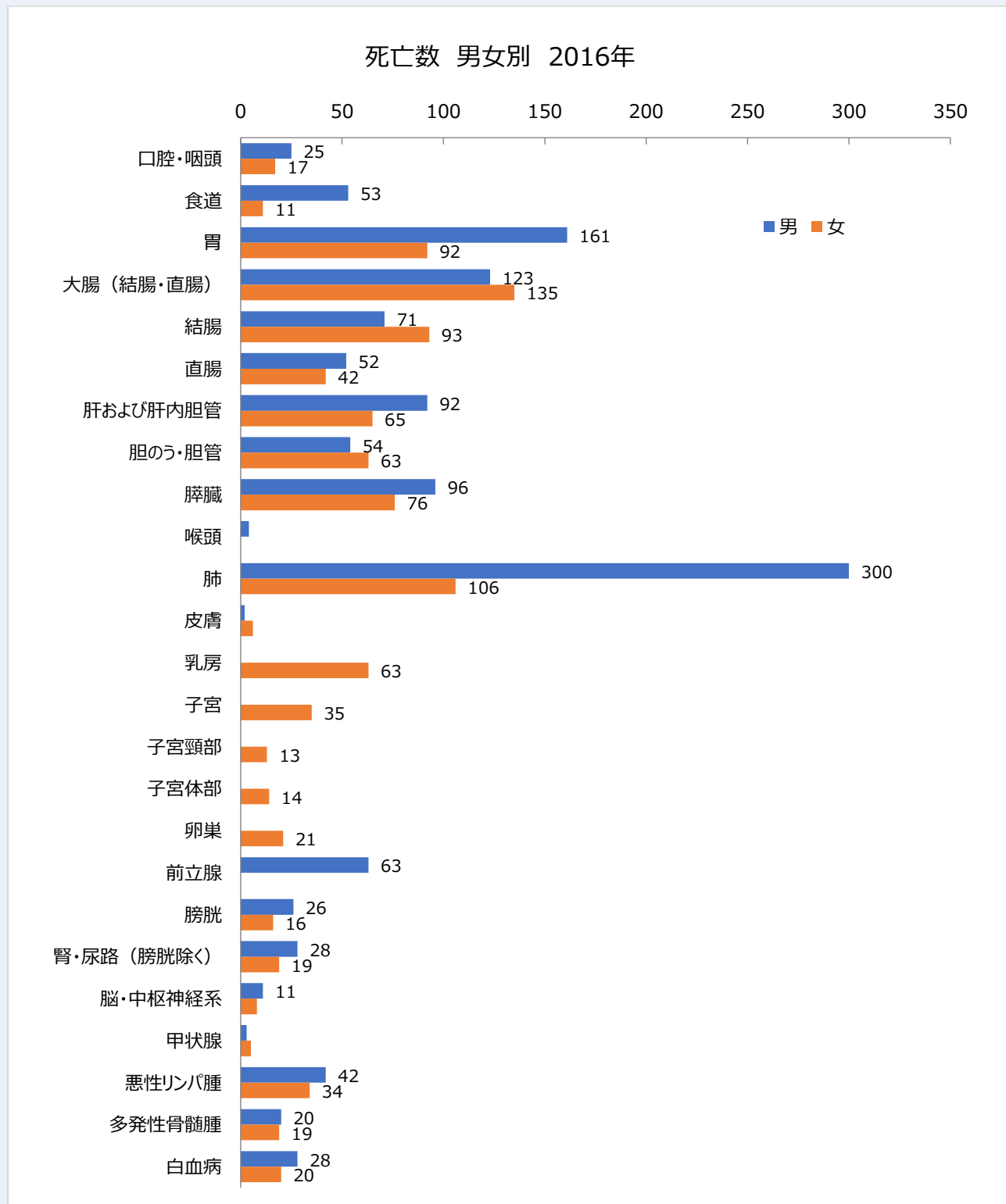


* 参考資料 *

死亡統計から見た鳥取県のがん死亡数の現状

鳥取県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性1,180人、女性855人、合計2,035人となっている。

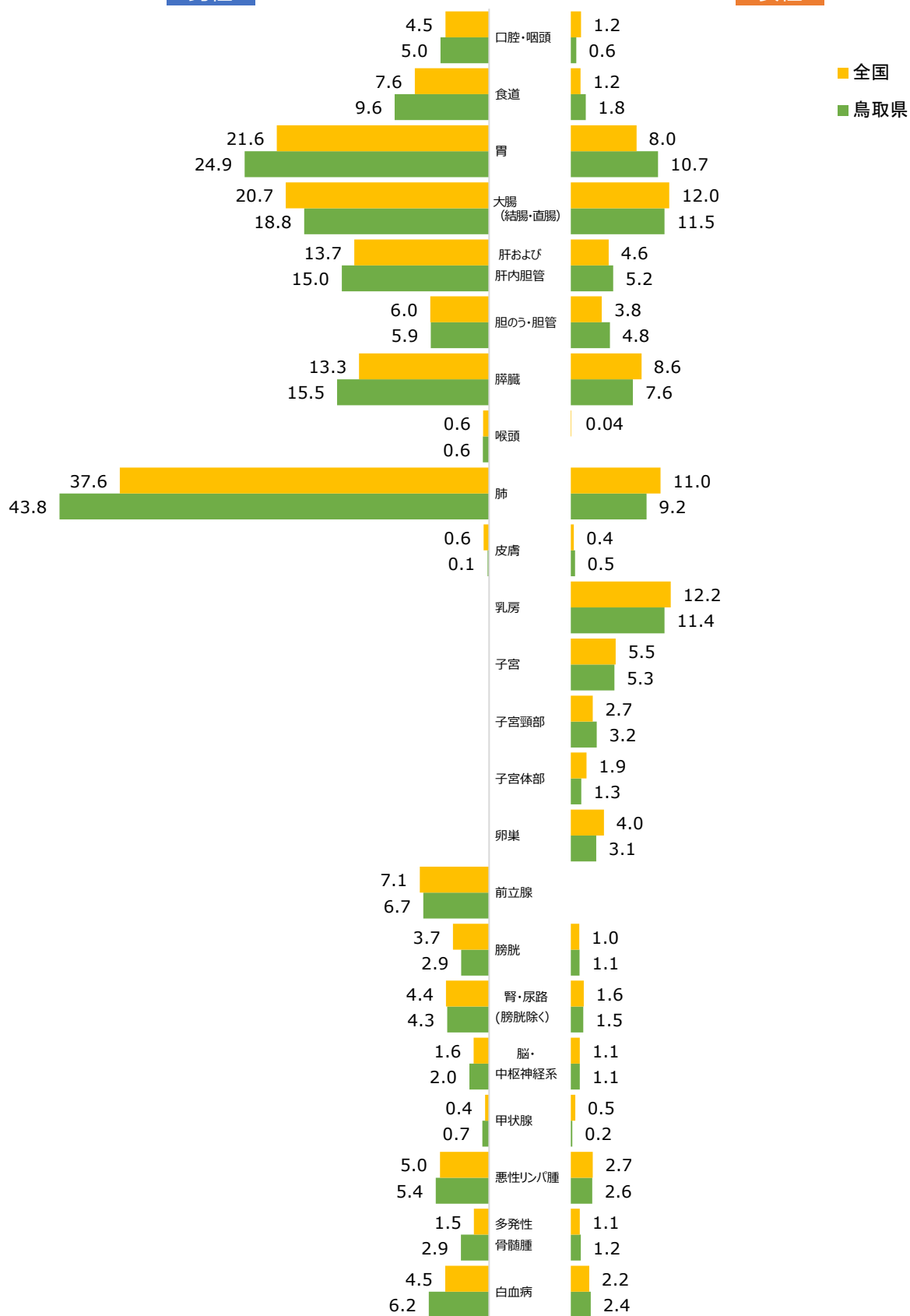
部位別には、男性は肺（300人、25.4%）が最も多く、次いで胃（161人、13.6%）、大腸（123人、10.4%）の順となっている。また、女性では大腸（135人、15.8%）が最も多く、次いで肺（106人、12.4%）、胃（92人、10.8%）、膵臓（76人、8.9%）の順となっている。



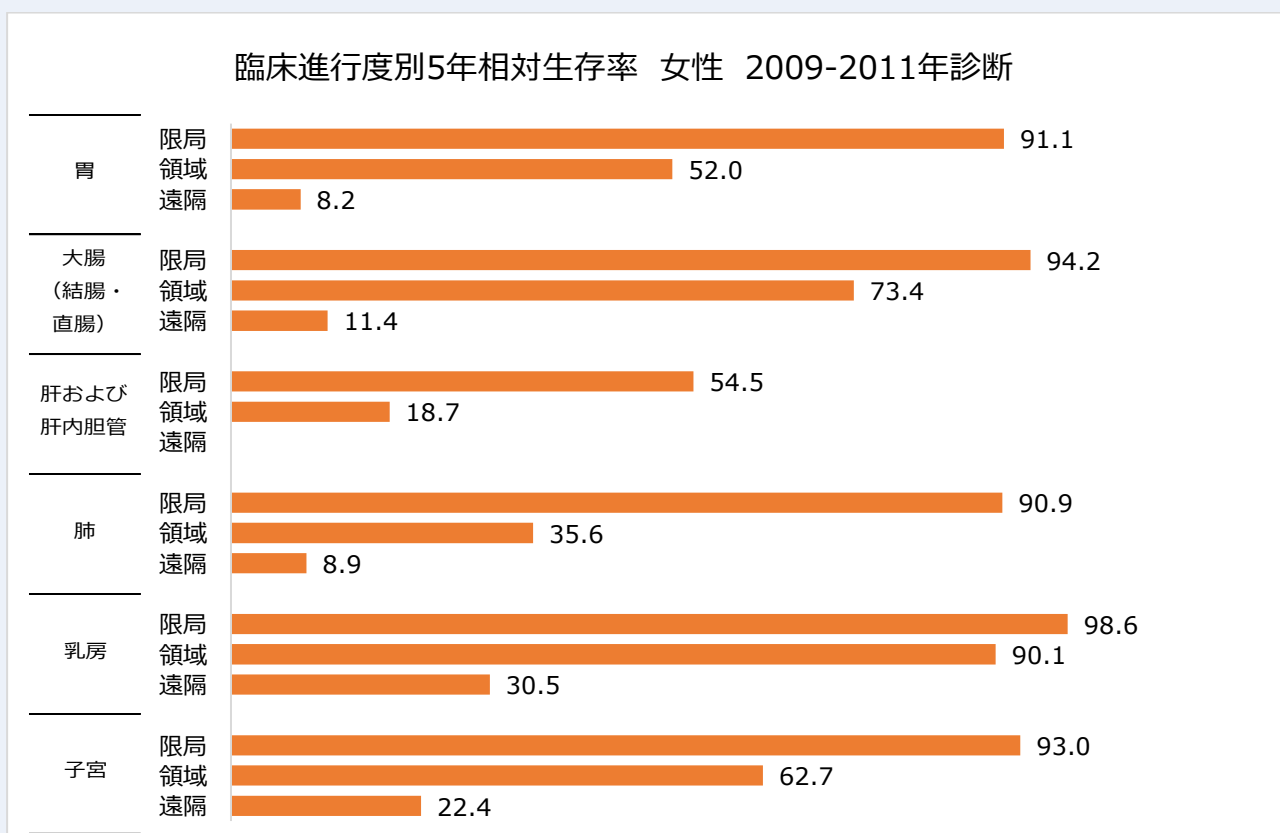
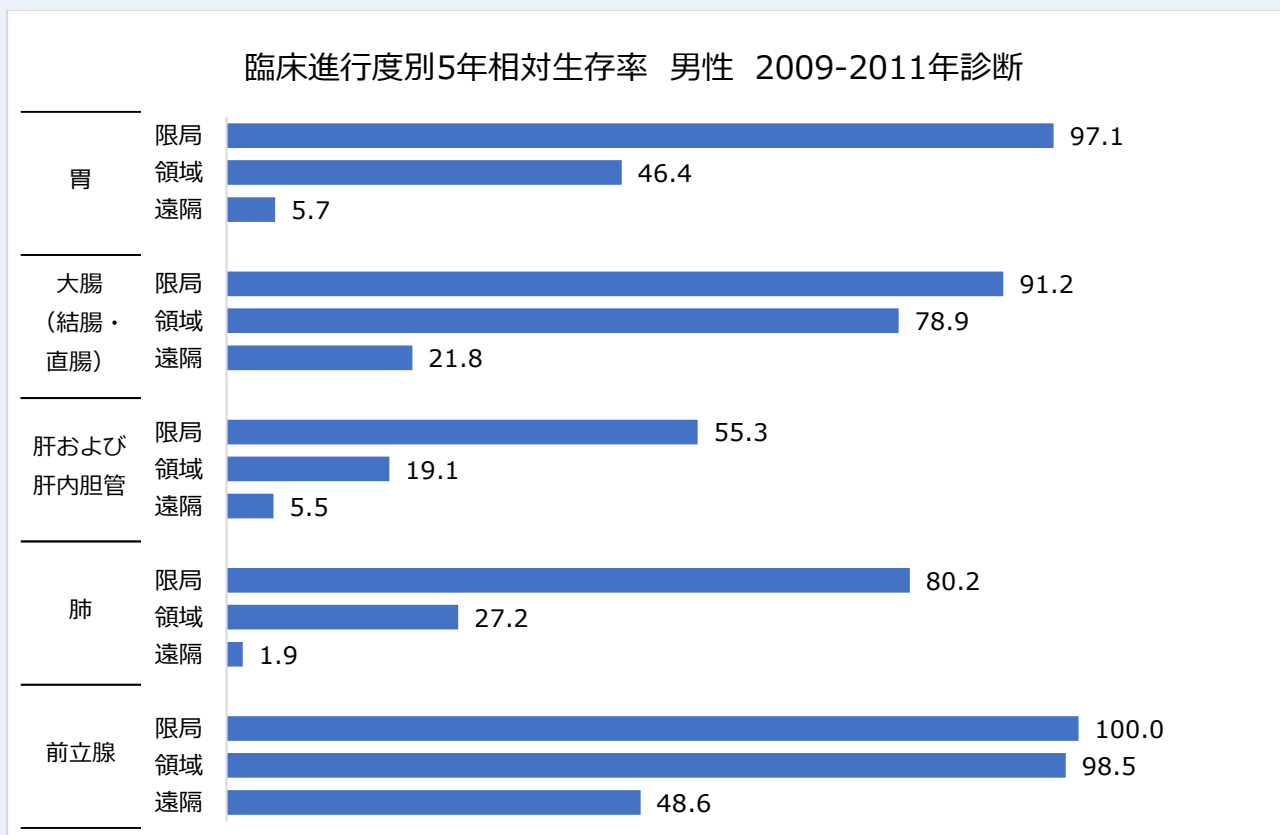
年齢調整死亡率 全国比較 2016年

男性

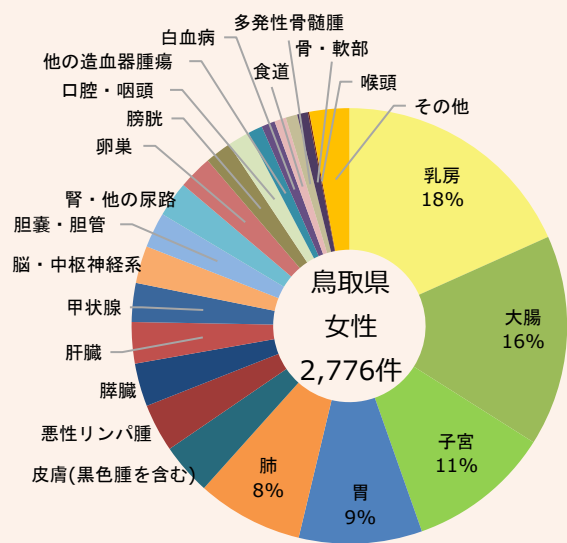
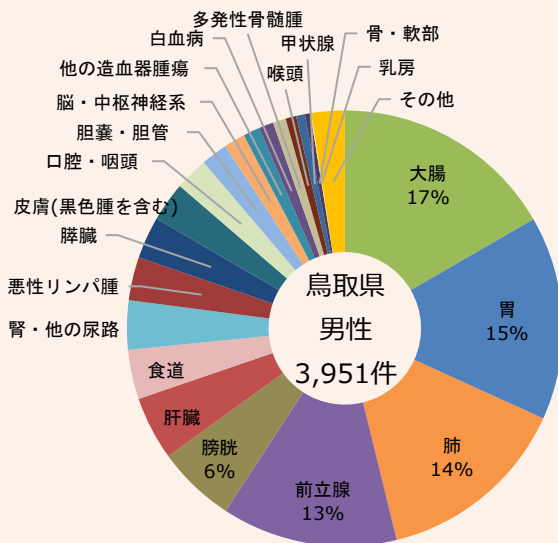
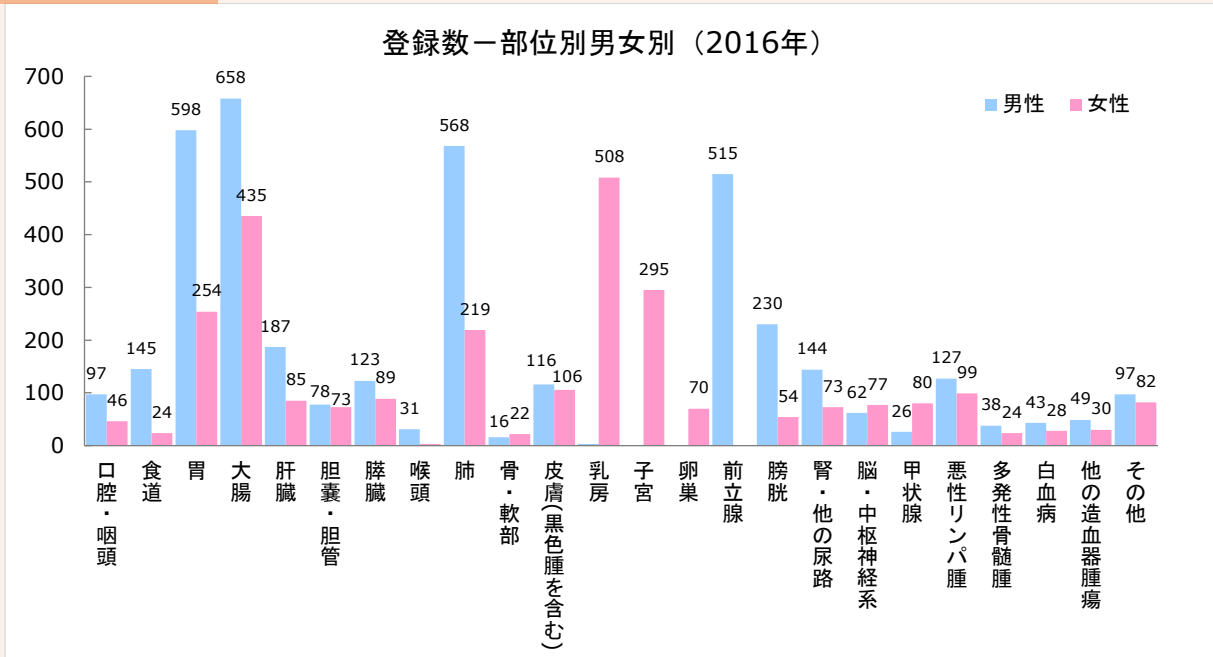
女性



臨床進行度別 5 年相対生存率 (%) (30 例未満の部位項目は削除)



院内がん登録



登録数は、男性は3,951件、女性は2,776件で合計は6,727件となります。

部位別には、男性では、大腸が最も多く658件、次いで胃が598件、肺が568件、前立腺が515件、膀胱230件、女性では、乳房が最も多く508件、次いで大腸が435件、子宮が295件、胃が254件、肺が219件の順。

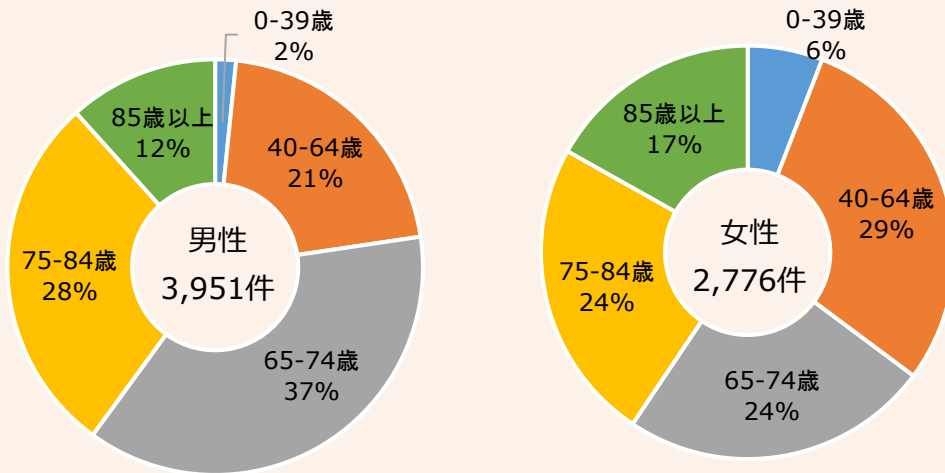
男女別割合は、男性が59%、女性が41%で、脳・中枢神経系、甲状腺以外のほとんどの部位で男性が多い。男性の登録数が女性の登録数の2倍以上を示す部位は、食道で最も大きく6倍、次いで膀胱が4倍、口腔・咽頭、胃、肝臓、肺、腎臓などが2倍となります。

院内がん登録から見た鳥取県のがん罹患の現状（2016年）

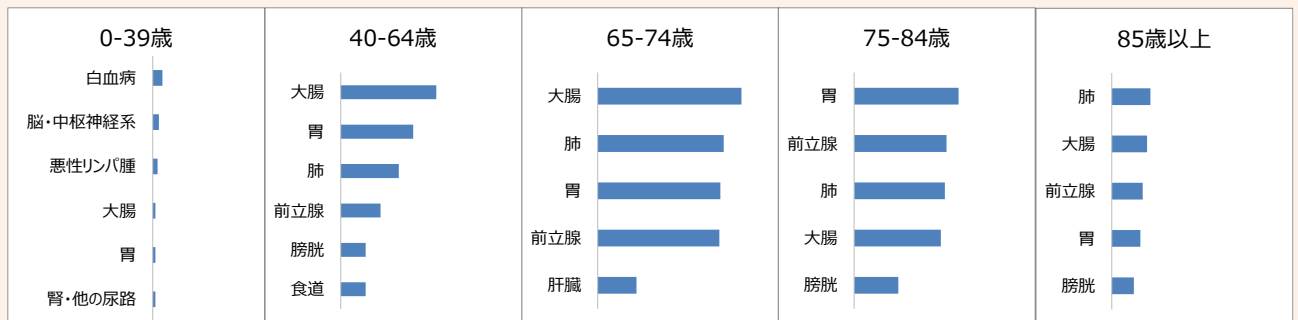
年齢区分別には、男性では、65～74歳代にピークが見られる。女性では、40～64歳代が最も多く、次いで65～74歳代、75～84歳代の順に多い。65歳以上の高齢者の割合は、男性が77%弱、女性が65%を占めます。

部位別には、0～39歳代の男性では、多い順に白血病、脳・中枢神経系、女性では、子宮、乳房、40～64歳代の男性では、大腸、胃、女性では、乳房、子宮、65～74歳代の男性では、大腸、肺、胃、前立腺、女性では、乳房、大腸、75～84歳代の男性では胃、前立腺、肺、大腸、女性では、大腸、肺、乳房、85歳以上では、男性は肺、大腸、前立腺、胃、女性は大腸、胃となります。

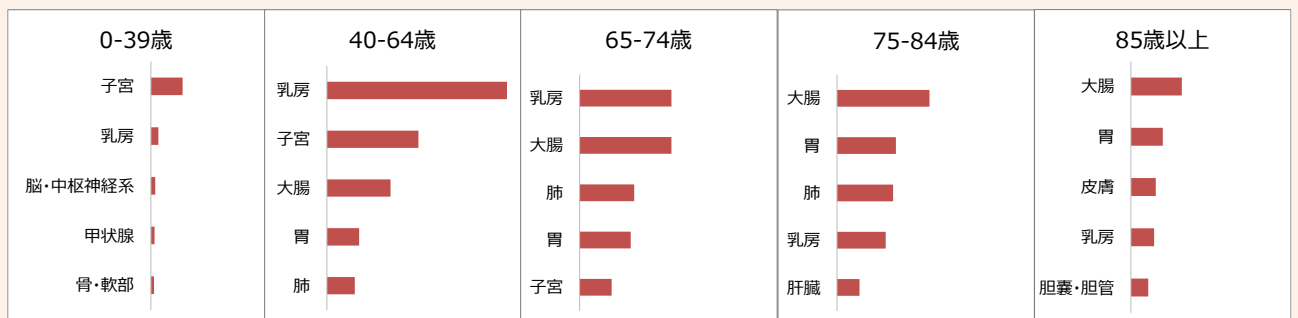
年齢階級別登録割合



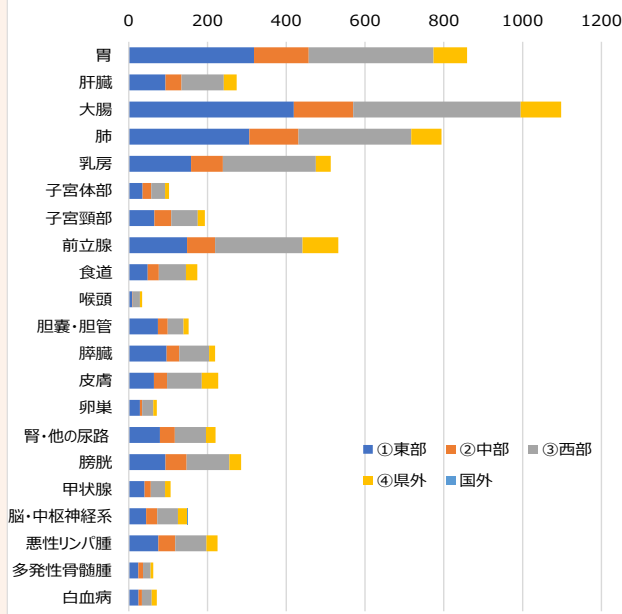
年齢区分別上位5部位（男性）



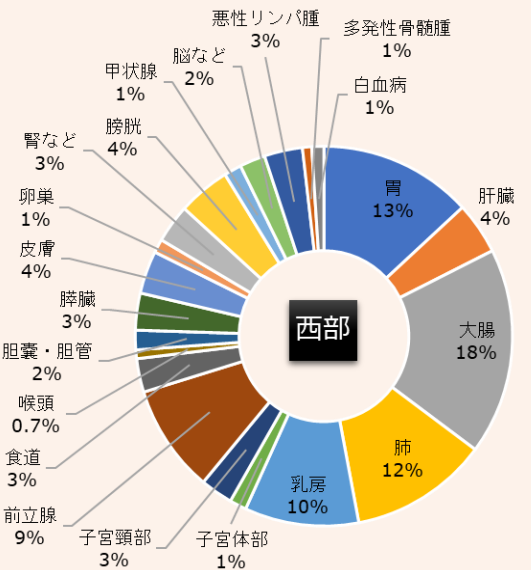
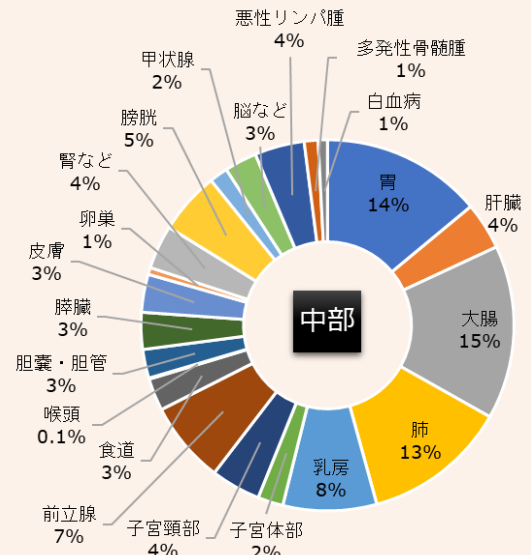
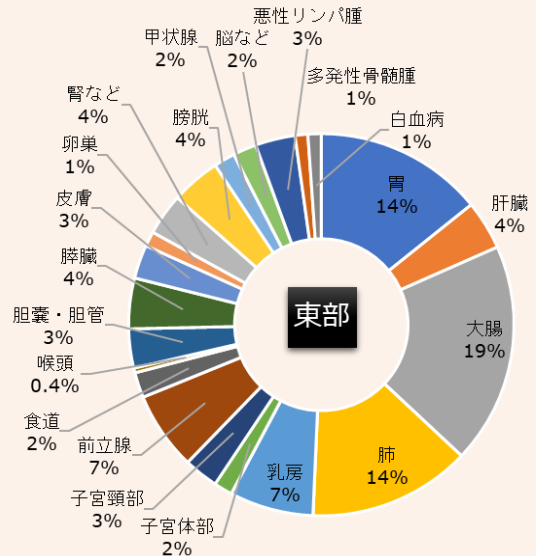
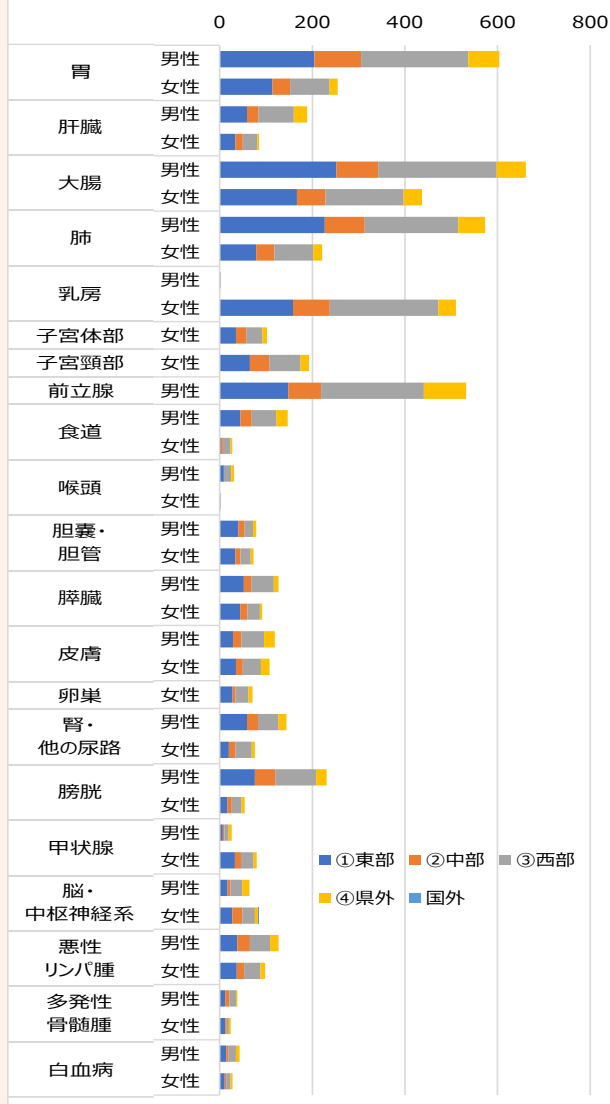
年齢区分別上位5部位（女性）



住所別分布 男女計



住所別分布



来院経路

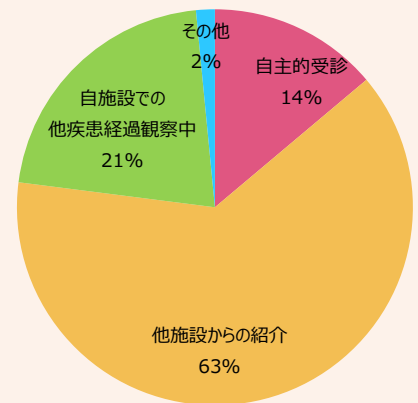
来院経路別には、「他施設からの紹介」が6割強を占めて最も多く、次いで「自施設での他疾患経過観察中」が21%、「自主的受診」は14%と少ない。

全国比較では、「自主的受診」は全国より多く、「他施設からの紹介」は全国より少ない。

施設別には、「自主的受診」は博愛病院で最も多く、「他施設からの紹介」は鳥取大学医学部附属病院で最も多い。

部位別には、「自主的受診」は乳房が最も多く、「他施設からの紹介」は子宮体部が最も多い。

来院経路別登録割合（鳥取県）



発見経緯

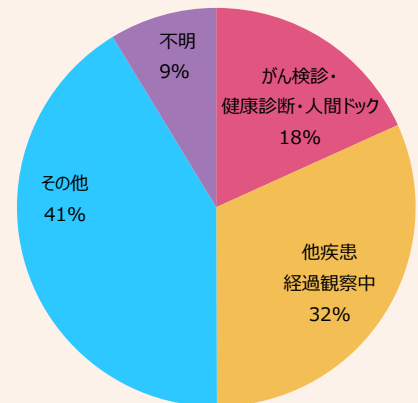
発見経緯別には、「他疾患経過観察中」が32%で最も多く、「がん検診・健康診断・人間ドック」は18%と少ない。

なお、「その他」と「不明」で半数を占めるので、実際にはそれ以上の割合になることが予測される。

全国比較では、「がん検診・健康診断・人間ドック」は、鳥取県が全国より2.5%多く、施設別には博愛病院が最も多い。

部位別には、「がん検診・健康診断・人間ドック」は子宮頸部40.6%、乳房30.3%、胃29.3%、前立腺28.5%、大腸26.0%の順で多く、「他疾患経過観察中」は肝臓が62.9%と最も多い。

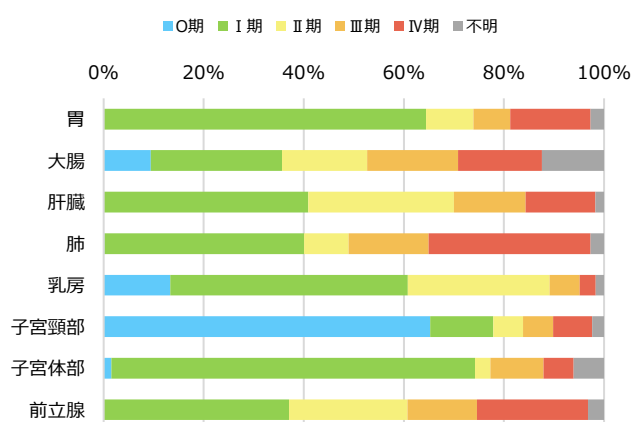
発見経緯別登録割合（鳥取県）



ステージ分布（部位別、全体）

治療前では、ほとんどの部位でⅠ期が最も多く、その割合は全国、鳥取県ともに2～8割を占め、子宮体部と胃が最も多い。0期は子宮頸部、Ⅱ期は乳房、肝臓、Ⅳ期は肺が最も多い。

UICC-TNM分類 治療前ステージ・部位別割合



UICC-TNM分類 術後病理学的ステージ・部位別割合

